

こどもと健康

NO・155

2015・3・16

インフルエンザ終息へ向かう！

昨年11月下旬から例年より早く流行が始まったインフルエンザは年末最終週には大阪府では定点当たり33.6、堺市31.6と警報レベルを超え、成人に大流行しました。年が明けて3学期が始まると、学校に流行が拡大し、1月16日からの第4週には定点当たり大阪府28.1、堺市では26.4をピークに次第に減少してきました。直近の3月2日からの第10週には定点当たり全国で4.3、大阪府2.9、堺市2.1と終息に向かっていますが、高知県では9.9となお注意報レベルとなっています。今シーズンの累計患者数は1395万人と推計されています。堺市では延べ207校で休校1校、学年閉鎖20学年、学級閉鎖186クラスとなりました。今シーズン、インフルエンザの流行が始まって以来、A香港型が流行の主流で2月の全国の衛生研究所のデータではA香港型が96.6%、B型が2.6%、AH1pdm09（6年前に大流行した所謂、新型）が0.8%でした。流行中のA香港型の変異が進みワクチン株と隔たりがある株が日本では5割を超え、アメリカ、ヨーロッパからも同様の報告があつてワクチンの効果が低く、患者数が増えた要因になっているようです。幸い、タミフル、イナビル、リレンザ等の抗ウイルス薬は良く効いているようです。

例年、A型に引き続いてB型が流行する傾向があります。直近の堺市内の30医療機関から毎日報告ではB型が3分の1を占めるようになりました。3月とはいえ寒い日が続けば、今後B型の流行が拡大する恐れがあります。A型とB型は別のウイルスですので、一度罹った方も暫くは油断しない方がいい、手洗い、マスクは続けましょう。

早くも手足口病の流行？！

手足口病はコクサッキーウイルスの感染による夏型感染症の代表ですが、どういうわけか、1月26日からの第5週に第5位に浮上してきました。その後も増加が続き、直近の第10週には第3位となり、今シーズン流行した冬型感染症のRSウイルス感染症を追い越しました。

基本的には手足口病は軽症の感染症で、コクサッキーウイルスA16型が最多で、A10型、A2型等やエンテロウイルス71型でも発症します。カゼと同じく飛沫感染の他、経口感染もあり、潜伏期は3～7日と言われます。例年春から初夏に流行が始まりますが、今年は例外のようです。症状は病名の通り、手のひら、足の裏、口の中に出る小水疱です。小水疱は膝からお尻にかけて出ることもあります。口の中の水疱は痛みを伴います。発熱は37～8℃の微熱が2、3日出ることもありますが、時に高熱を伴い脳炎・脳症を合併することもあります。エンテロウイルス71型の感染のケースが殆んどですが、高熱を伴う手足口病は要注意です。特別の治療はありませんが、痛みの為食欲が落ちますので、口当たりの良い刺激のない食事を与えましょう。熱が下がり、食欲があり元気であれば、発疹があつても登園は可能です。

堺市こども急病診療センター工事進む

現在堺市の小児初期（一次）救急は私が管理医師をしている堺市泉北急病診療センターが担っていますが、今年の7月1日にJR津久野駅南の家原寺町に移転新築される堺市総合医療センターに隣接して堺市こども急病診療センターが建築工事中です。3月13日に現場に行ってみると、南側の覆いは外され、白い壁に「堺市こども急病診療センター」の赤い文字が見えました。このまま順調に工事が進捗すれば、6月20日に堺市総合医療センターと一緒に開所式を行う予定になっています。7月1日からは小児科はこども急病診療センターに集約され、泉北急病診療センターは土曜、休日の内科のみになり、宿院急病診療センターは廃止されます。泉北ニュータウンから少し距離が遠くなりますが、堺市の小児救急医療体制を継続的に維持する為ですので、ご理解下さい。これにより堺市の小児救急は一次から二次、三次まで同じ場所で連携して行われることになります。なお、詳しい検査や入院が必要な患者さんは隣の堺市総合医療センターだけでなく、ベルランド総合病院、大阪労災病院、清恵会病院、耳原総合病院、近大堺病院の当日当番の後送病院に紹介されます。新しいこども急病診療センターでは宿院急病診療センターの小児科が廃止されますので、年間3万人の小児救急患者さんを予測しています。堺市医師会小児救急医療検討委員会で態勢づくりを急いでいる所ですが、何といたってもマンパワーの確保が課題です。堺市医師会の小児科医は勿論、近大小児科、府立母子保健総合医療センター小児科各科を始め、各大学や病院小児科にも協力をお願いし、何とか医師確保の見通しはつきました。7月に新こども急病診療センターが機能し始めれば、13年間小児救急に取り組んできた私は管理医師を辞し、昨年4月に着任したセンター長にすべてを任せることになっています。熱が出たらすぐに急病診療センターに駆けつけるのではなく、家庭看護力を高め、#8000や#7119の小児電話相談や日本小児科学会の「こどもの救急」(<http://kodomo-qq.jp/>)なども上手に活用して下さい。

ワクチンの接種漏れはありませんか？

保育所、幼稚園で毎年乳幼児に流行する「みずぼうそう」ワクチンが日本でも昨年10月からやっと定期接種化されて無料になりました。対象は1歳と2歳児で1歳のお誕生日がすんだらMR（はしか・風疹混合）ワクチンと同じ時期に1回目の接種をします。2回目の接種はMRワクチンが就学前の年長児ですが、みずぼうそうワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。

4月は進学、進級の時期ですが、ワクチン接種が年齢によっては4月以降定期接種として出来なくなる（有料になる）ものもあります。特例の3歳児と4歳児の「みずぼうそうワクチン」は3月31日迄です。DPTポリオ4種混合ワクチンなど各ワクチンの追加接種や4月入学の年長組のはしか・風疹混合（MR）ワクチン、小学6年生のジフテリア・破傷風混合（DT）ワクチン、特例の20歳未満の日本脳炎ワクチン等、母子手帳に空欄がないか、確認してください。分からない時はなんなりとお電話下さい。

休診のお知らせ

○3月30日（月）所用の為、休診します。

○4月17（金）と18日（土）は

日本小児科学会総会出席の為、休診します。